

職：ところがそうはいかない理由があるのです。例えば、この狭い道路の奥で火事が起きたら大変です。今のままでは、まず近隣にお住まいの方々が避難するときに危険です。それに、消防車は幅は2.4メートルくらいあるので、火事の現場まで近づけません。また、お隣の家だけでなく向かいの家にも燃え広がる可能性が高いと思われます。



杉：なるほど。火事だけでなく地震とかも怖いなあ。

寺：おい、お前はどっちの味方や。とはいえ、確かに言うとおりのなあ。自分の家だけの話やなくて、二項道路のまわりのみんなに関わる話や。

職：そうなんです。

寺：先祖代々の土地を大事に思う気持ちは分かるけど、セットバックしても十分家は建てられるんとかがうんか？

丸：・・・庭を残したかったんや。

寺：庭？そうか。小さい頃から花が好きやったもんなあ。そやけどセットバックせんと、ご近所さんみんなに迷惑をかけてしまうかもしれへん。お互い様のことやさかい・・・

丸：分かってる！ちょっと考えてるんや。

そのとき丸岡さんは、子供のころの出来事を思い出していました。

あの庭で、子供の丸岡さんは、初めて山登りに連れて行ってもらったポンポコ山を眺めてワクワクしている、とても幸せな思い出でした。

丸岡さんが庭を残したかった本当の理由は、あの庭でお父さんと過ごした子供の頃の大切な思い出にあったのです。でも・・・



丸：・・・分かった。セットバックする。

寺：お、おお、そうか。よし！ほな、ちょっと早いけど飲みに行くか。

丸：そうやなあ。

寺：おい、何ボケーツとしてんねん。お前も一緒にいくぞ。

杉：えっ？僕もいいんですか。

寺：わしの行きつけの店に連れて行ってやる。朝までつきあえ！

杉：あっ、はい！おとうさん。

その後、丸岡さんの家はどうなったのかというと・・・

建て替えた家はセットバックして、みんなのために道路の拡幅を行いました。

あの庭はなくなってしまいましたが、そのかわり、家の2階には広いバルコニーがつくれ、そこには、やっぱりポンポコ山を眺めながら、久々のトレッキングを楽しそうに計画している丸岡さんの姿があるのでした。

寺多さんと杉木さんの親子関係も一歩近付いたようです。



次回、STORY 5 建設リサイクルの逆襲。
乞うご期待♪

